

# 第53回 医学教育セミナーとワークショップ

## 開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。第53回医学教育セミナーとワークショップは、岐阜大学におきまして開催いたしますので、奮ってご参加下さい。

岐阜大学 医学教育開発研究センター 鈴木康之

**日程** 2014年8月8日(金)～10日(日)

**会場** 岐阜大学医学部

- WS-1** IPEで利用できる映像教材のシナリオを考える
- WS-2** 量的データを用いた医学教育研究のための統計解析 (初級編)
- WS-3** SP養成 (初級編) —SP養成者のためのワークショップ
- WS-4** EMIを活用しよう
- WS-5** 授業を反転してみよう! —反転授業入門—
- WS-6** 総合的臨床能力を評価するOSCEの設計：  
グループプリントの作成から合否判定まで
- WS-7** 医学／医療者教育におけるポートフォリオの活用
- WS-8** 歯学部学士課程の学生は、医療面接の医療コミュニケーション、  
診断推論そして行動変容をどのように段階的に学ぶべきか？
- セミナー** 医学教育における学習者評価

2014  
夏

プログラム						
8日(金)	午後		WS-2			WS-3
9日(土)	午前	WS-1	WS-2	WS-4	WS-5	WS-3
	午後	WS-1	WS-6	WS-7		WS-8
	夕	セミナー				
	夜	懇親会				
10日(日)	午前	WS-1	WS-6	WS-7		WS-8

## WS-1 IPEで利用できる映像教材のシナリオを考える

企画： 川上ちひろ・今福輪太郎・鈴木康之（MEDC）、市橋亮一・若林英樹・平田節子（総合在宅医療クリニック）

日時： 8月9日（土）9:00-17:30、10日（日）9:00-12:30（12時間）

概要： 多職種連携医療教育（IPE）を行う際、シナリオや映像教材、また模擬患者に演じてもらうなど施設ごとで様々な工夫されています。これらは実際の医療の現場を見たことがない医療系学生や新人医療スタッフにとって、医療をイメージするために有用なツールとなります。しかしよいシナリオや教材開発には、多くの労力が必要となります。このワークショップでは、在宅での医療を理解するための映像教材を作成する目的で、その教育的意図や視点、教材に盛り込む仕掛けなどを参加者と一緒に話し合い、映像教材シナリオの原案を作成します。実際に地域で生活されている患者宅へ訪問し、映像教材素材の撮影を行い、その素材をもとに教材シナリオ作成の体験をしていただきます。ただし、患者宅への訪問人数が限られますので（十数名程度）、当日調整いたします。ご理解いただきますようお願いいたします。ファシリテーターとして、多職種連携医療教育共同開発事業で協働している、昭和大、広島大、筑波大、名古屋大、地域医療振興協会の皆様にもご参加いただけます。

※8月9日（土）は、岐阜大学サテライトキャンパスにお越しください。（9:00開始）

対象： IPE教材作成に興味がある方（定員25名）



## WS-2 量的データを用いた医学教育研究のための統計解析（初級編）

企画： 椎橋実智男（埼玉医科大学）、菅沼太陽（東京女子医科大学）、丹羽雅之（MEDC）

日時： 8月8日（金）14:00-18:00、9日（土）9:00-12:30（7.5時間）

概要： 統計は苦手、検定となるとはやはり何をどうして良いのか、という方もおられるでしょう。このデータは検定で良いのか？あるいは順位と検定か？そもそもパラメトリックとノンパラメトリックの区別は？などなど、今更聞けないこともあるかも知れません。本ワークショップは「医学教育や医学教育研究に興味はあるが統計解析はちょっと・・・」という方を対象とした統計解析の初級編です。データの性質、確率モデル、帰無仮説から始めて、検定を中心に、パラメトリック、ノンパラメトリックな平均値の比較、3群以上の平均値の比較、相関係数、分割表の検定（カイ二乗・Fisher）などについて、やや多めの講義、グループワークを通して学びます。初級編ではありますが、最後のセッションでは重回帰分析、ロジスティック回帰分析も体験していただく計画です。統計解析が得意でない方の参加をお待ちしています。

対象： 医学教育研究のための量的データの統計解析を初歩から学びたい教職員・学生（定員20名）

\*参加条件：Windows版MS-Office2007 or 2010 or 2013が動作し、無線LANに接続可能なノート型パソコンを持参してください（Macintosh不可）。主にMS-EXCELを使用します。事前にお送りするMS-EXCELのアドインをインストールしてください。インストールがうまくいかない方は8日（金）13時に会場にお越しください。



## WS-3 SP養成（初級編） —SP養成者のためのワークショップ

企画： 藤崎和彦（MEDC）、阿部恵子（名古屋大学）

日時： 8月8日（金）14:00-18:00、9日（土）9:00-12:30（7.5時間）

概要： 医、歯、薬、看護、リハビリ、鍼灸、栄養等、多くの学科に模擬患者参加型教育が拡大するなかで、模擬患者参加型の医療者教育に対するニーズはますます増加している。本ワークショップでは、これから模擬患者養成に関わる人のために、模擬患者とは何か、どうやって模擬患者を集めるか、シナリオの作り方、練習の仕方、フィードバックについて等、初心者でも分かるような具体的、実践的な中味をグループワークを中心に学んでいきたい。

対象： SP養成者、教員、指導医、研修医、看護師、臨床指導者、学生など（定員30名）



## WS-4 EMIを活用しよう

企画： 石井誠一（東北大学）、宮本 学（大阪医科大学）

日時： 8月9日（土）9:00-12:30（3.5時間）

概要： Extended Matching Items (EMIs) は多肢選択問題の一種である。臨床推論能力を深く問うことができる問題とされ、欧米の医学教育で広く用いられている。本邦では共用試験CBT、医師国家試験で小規模な出題が見られるが、一般には普及していない。EMIでは特定のテーマ（症候、病態など）を設定し、1テーマにつき5つ程度の症例（説明文）と15前後の選択肢をセットで出題する。EMIの特徴・利点として、1) 症候・病態の理解を広く問うことができる、2) 臨床推論の思考過程に近い、3) 作問が簡単である、4) 一度に複数の作問ができるため作問効率が良い、5) 作問と同時にブラッシュアップを行うことができる、6) 選択肢から正答を絞り込む“cueing effects”を低減できる、7) 信頼性・妥当性が高い、などが挙げられる。本ワークショップでは、サンプルEMIの解答に挑戦、グループでEMI作製、プロダクト発表、グループ間ブラッシュアップ、を行ってEMI作製のコツをマスターする。ワークショップ終了時に参加者は、必ず所属大学でEMIを作製し活用することができるようになる。

対象： 試験問題作成に関わる医療系教員、臨床指導者（定員30名）



## WS-5 授業を反転してみよう！ —反転授業入門—

企画： 西屋克己（香川大学）、加藤 大（ファカルタス）

日時： 8月9日(土)9:00-12:30（3.5時間）

概要： 2007年頃から米国の大学や高等学校において、講義内容を15分程度にまとめたネットワーク上の動画教材を予習課題とし、従来宿題となっていた演習などの応用課題を講義において学生と教員が対話的に学ぶブレンド型講義形態（反転授業）が開発され普及しています。この講義形態により学生は事前に能動的に学習し、予習してきた知識を授業で活性化することができ学習成果をあげています。このワークショップでは反転授業について全く知識のない方でも、その基本から学習し、医療者教育における反転授業を導入した講義形態を体験していただき、医療者教育における反転授業の導入可能性とその実際について考えていきます。

対象： 医療系教員、臨床指導者（定員30名）



## WS-6 統合的臨床能力を評価するOSCEの設計：ブループリントの作成から合否判定まで

企画： 田川まさみ（鹿児島大学）、西城卓也（MEDC）

日時： 8月9日(土)13:30-17:30、10日(日)9:00-12:30（7.5時間）

概要： アウトカム基盤型教育が医学教育に取り入れられ、教育プログラム修了時における学習成果の評価が重要になっている。学習到達目標として掲げた統合的臨床能力の有無を、高い妥当性、信頼性で評価する医学部の卒業時OSCE、臨床研修でのOSCEの計画と運営が医学教育担当者に求められている。本ワークショップでは、各教育機関、教育プログラムにおいてOSCEを実施するために必要な、1) ブループリントの作成 2) ステーションと課題の作成 3) 評価、集計、合否判定の計画 4) 必要なリソースと運営 について、講義とグループ討議で修得する。USLME step2 CSを参考に設計した鹿児島大学OSCEの実例も紹介する予定である。

対象： OSCEの設計に関わる医療系教職員、臨床指導者（学部、臨床研修、専門医研修）（定員30名）



## WS-7 医学／医療者教育におけるポートフォリオの活用

企画： 錦織 宏・渡邊洋子・柴原真知子（京都大学）

日時： 8月9日(土)13:30-17:30、10日(日)9:00-12:30（7.5時間）

概要： 近年、ポートフォリオは医学／医療者教育の現場で徐々に普及しつつある。元来、学習のサポートツールとして利用されていたポートフォリオであるが、昨今、評価にも利用されるようになってきた。学習者自身による学びの振り返り、学習の到達度の確認、学習の発展に向けた次の課題の明確化など、特に形成的評価はポートフォリオを用いることで行いやすい。一方で、ポートフォリオを総括的評価に用いる場合、記述形式の構造化が求められ、その可能性は狭められて十分な効果が望めなくなる。本ワークショップでは、ポートフォリオを教育実践に効果的に採り入れることを目指して、ポートフォリオの基本的な考え方、教育的役割、活用事例について共有・検討する。特に、振り返りというポートフォリオに欠かせない概念や学習のサポートにおけるポートフォリオの役割、そしてポートフォリオを使った評価法に焦点を当てる。

対象： 医学／医療者教育に関わっておられ、ポートフォリオの導入・活用に関心のある方（定員30名）



## WS-8 歯学部学士課程の学生は、医療面接の医療コミュニケーション、 診断推論そして行動変容をどのように段階的に学ぶべきか？

企画： 小川哲次（広島大学）、藤崎和彦（MEDC）

日時： 8月9日(土)13:30-17:30、10日(日)9:00-12:30（7.5時間）

概要： 臨床での最初の介入である歯科医療面接では、多様なニーズや価値観を有する患者・家族の予測できない行動（マニュアルや教則本に書かれていない）に対応しながら、患者・家族との人間関係の構築、疾患や治療のための診断推論そして患者・家族の行動変容へと繋げていく能力が求められます。このような医療面接の教育では、卒業時のアウトカムのみならず、それを獲得するまでの段階的なアウトカムが極めて重要です。本ワークショップでは、このようなマニュアルを越えた医療面接教育での卒業までの段階的アウトカムを、ルーブリックの手法を使いながら、1) ベンチマーク、2) マイルストーン、3) キャップストーンへとロードマップとして作成する予定です。併せてこの段階的ルーブリックづくりや教育手法についての議論を通じて、参加の皆さんとの情報の共有が行われることを期待しています。

対象： 医療面接の教育にかかわる歯学系の教員、医療職（定員30名）



## セミナー 医学教育における学習者評価

講師： 田川まさみ（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医歯学教育開発センター）

日時： 8月9日(土)17:45-18:45

概要： 医学教育、医療者教育の推進と医療者の質保証に、学習者の評価は極めて重要な役割を果たしている。学習者評価に求められるのは、評価結果が評価対象である能力の有無、程度を表していることである。評価方法を新たに導入・改善するにあたって、運営が評価の質を大きく左右する。本セミナーでは、複雑で多岐にわたる医療者の能力、行動を適切に評価するための、目的に即した計画、運営、結果の判定と利用のあり方を紹介し、教育者の役割を議論する。また、アウトカム基盤型教育における医療現場での実践力、プロフェッショナリズムを含むコンピテンシー評価の最新の動向についても話題にする予定である。



## 参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。

「MEDC」で簡単検索できます。

**締め切り：2014年7月27日(日)**

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。  
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。  
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円（資料代）学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。

資料代は、資料ならびに報告書「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

参加者には後日、報告書を送付いたします。（学部学生は報告書の送付はありません）

会場： 岐阜大学医学部 教育・福利棟  
(〒501-1194 岐阜市柳戸1-1)

JR岐阜駅9番のりば C70・C60系統バス

岐阜大学病院バス停(終点)または柳戸橋バス停(終点の1つ手前)で下車

